MACF 礼拝説教要旨
2022 年 12 月 18 日

「イエスというお名前」と
「礼拝者」

マタイによる福音書 1 章

18 イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。19 夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。

20 このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。21 マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」

22 このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。23 「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

24 ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおり、妻を迎え入れ、25 男の子が生まれるまでマリアと関係することはなかった。そして、その子をイエスと名付けた。

＊＊＊

世界中、どの国の人にもそれぞれ名前があります。とても大切なものです。両親が子供のことを思い、考え、それぞれに名づけるわけです。

イエスという名前はイエス様の両親が考えて命名したわけではありませんでした。
ヨセフが天使から受け取った名前でした。つまり、この赤ちゃんの名付け親は神様なのです。
そしてイエスという名前には意味がありました。「神は救い」「神は救ってくださる」という意味です。つまり、イエス様を知れば知るほど神様が私たちの味方であり、私たちを救い、助け、癒し、力付けてくださるお方であることがわかるのです。それはイエス様がそのお名前通りの働きをし、そのお名前通りの内容を教え、間違いなく私たちに神様からの
救いを届けてくださるからです。

さらに、イエス様は「インマヌエル」と呼ばれるとも預言されていました。それは「神は私たちと共におられる」という意味の名前です。これもまた、イエス様を知れば知るほど神様が私たちと共にいてくださることがわかるからなのです。

イエス様を知り、信頼することの大切さは、神の救いを知ることになり、神が共にいてくださることを味わうことができるようになるからです。

先週、私たちは救い主誕生の最初のニュースが羊飼いたちに届けられたということを
学びました。身分の低い、社会的弱者だった羊飼いたちに最高のニュースが最初に届けられました。それは神様が身分の低い人たちを大切な存在と認めており、彼らを本当に愛して
おられるからに他なりません。
マタイによる福音書２章には東の国から星を頼りに救い主を礼拝するためにやってきた
占星術師たちが登場します。
彼らは、いわば異邦人です。
ユダヤの宗教指導者たちから見れば、かれらは軽蔑の対象でした。
ところが彼らは遠くの方からわざわざやってきたのです。イエス様を礼拝するために。

イスラエルの教師たち、宗教者たちは預言の言葉を知っていましたから救い主の誕生を
前もって理解していたはずですし、ベツレヘムで生まれる事も知っていました。
でも、彼らはイエス様を礼拝しようとは思いませんでした。
貧しい、粗末な飼葉桶に寝かされている赤ちゃんのことなど眼中になかったのです。
彼らの目は、金持ち、宮殿の方向を向いていたとも言えるでしょう。
そして、王ヘロデは、救い主が王としてやってくるという言葉に激しく反応し
周辺の赤ちゃんを殺害するのです。
そこで殺された赤ちゃんたちのことをボンヘファーという神学者は「キリストのために殺された最初の殉教者」と呼んでいます。
逆に言えば、当時のユダヤの指導者たちはイエス様を歓迎せず、いや、むしろすでに
いない方が良いと考えていたのです。

ここに深刻な問題があります。
イエス様を心から礼拝しているのは、ユダヤ人指導者ではなく、異邦人たち。
遠くから旅をして礼拝をささげるためにやってきた占星術師たちでした。
しかし、イエス様は、まさに、そういう人たちのためにこそきてくださいました。
礼拝の心をもっている異邦人。礼拝の心をもっている羊飼いたち。
かれらの心は神様からの福音に敏感でした。
そして素直に反応し、行動しています。
その心こそクリスマスなのです。

一方ヘロデは赤ちゃんを殺し、すでにイエス様に対して敵対感情を
もっています。彼の目には自分の栄誉、自分の権力、自分の宝物以外には
何も入りませんでしたし、それを邪魔する存在は殺してしまう残忍さを
もっていました。
先日、クリスマスの聖劇を披露した保育園の園児のエピソードには
心打たれました。園長先生からのメールがあったのです。

＊＊＊
先日あったエピソードをお伝えします。

今年も年長組が聖誕劇を演じるのですが、例年通り園児たちの配役決めから始まります。園児たちは自分が演じたい役を小さい時から考えて、ワクワクしながらこの時期を迎えます。人気度の高いものって、それほどないのですが、みんなそれぞれが何故かピッタリの役に立候補します。
不思議です。
その中で今年ヘロデ王になった子は、すごく強そうでかっこいいからという理由で立候補したようです。

練習を開始し、繰り返すうちに、台詞がスラスラ言えるようになってきました。
本番は、来週の木曜日です。

そういう中で、ヘロデ王役のこの子はしっかり、イエス様誕生のストーリーを
理解したようです。急に、昨日から、「台詞を言いたくない」と言い出したのです。
しかも泣きそうになりながら。

私は、時間をとって話を聞きました。
するとその子がこう言うのです。
「僕はイエス様が大好きだから、イエス様にあんな酷いことをするヘロデ王、僕は嫌いだ。ヘロデ王の役なんかやりたくない」
と言うのです。

心が洗われました。クリスマスの大切さを私はその子から学びました。

「ありがとう、ほんとにそうだよね」って抱きしめてから
もう一度この物語の中で大切な存在であるヘロデ王の役について話をしました。
イエス様が大好きだから、イエス様にひどいことをする王様の役はやりたくない
というこの子の真っ直ぐな思いに、涙が出そうになりました。

先日、祝福式でも先生に祈っていただきました。
この子を抱きしめているイエス様の姿が浮かびました。
＊＊＊
園児のもっている純真な心、とてもうれしく感じました。
＊＊
この子のもっている心を分けてもらいながらクリスマスを祝いたいものです。
＊＊
MACF 礼拝映像は
https://youtu.be/bLxLIP2Sz8Q